海外日誌（十一）

在米　山本一清

午後五時頃、吉田氏及び英子と三人で下町へ行き、買ひ物、それから停車場へ行き、暫く時間があるので、驛長ブルムガード氏に月末の西部旅行の乘車券を依頼。六時少し前、シカゴより直行列車着、之れで寺本氏を始め日本人學生諸氏來着せられたのを迎ゑ、汽船で天幕村に案内した。

夕食後、YMCA學生大會の開會式に出席。

夜、自分と英子とは、天文臺の圖書室で、バレット氏の厚意により、故バーナード教授が生前世界各地から貰はれた賞牌を見た。（六月十五日の續き）

六月十六日（土）

今日から毎日、自分は朝早く起き、七時からYMCA學生大會に出席、九時からは特に日本人學生部のため聖書講演をすることとなる。題は「馬太傳」。

午後、天文臺研究室で、大犬のエプ星の分光寫眞を測定す。

夕方、シカゴ大學より來られた岩上氏外四氏を天幕村に迎へた。

今日、リック天文臺の副臺長エトケン教授より招待狀來る。

六月十七日（日）

朝九時から天幕村で聖書講演。十時半からは同所の禮拜式に列す。式には、YMCAの學生のみならず、天文臺の諸教授を始め、村の人々多く出席した。此の樣子で見ると、多分、村の教會は殆んど誰も禮拜に出席しなかつたであらう。

午後、自分は天幕村の日本人學生二十數氏を迎えて、天文臺の四十吋及び二十四吋望遠鏡を案内説明した。偶々、漫遊中の京都市助役今村氏も來られた。四時から多數は停車場あたりまで散歩し、湖岸の芝生に腰を下して、雜談などした。岩上氏等は六時の列車でシカゴへ歸られた。

今日午後、英子は、また〳〵、日本服を持ち出して、ミス・リーとミス・カルヴァトとに着せ、それをミスタ・リーが寫眞に撮るといふ風の騷ぎをやつてゐた。

六月十八日（月）

「爭はれないもので」日本人が十四五人も集つてゐるのだから、日本食の會を開かうといふ相談が天幕村に持ち上つた。そこで材料買集めのため、寺本氏は今日の四時の汽車でシカゴへ急行する。

六月十九日（火）

島津夫人の好意により、カマボコ、海苔、かつをぶし、椎茸や、竹の子や、干瓢や、豆腐や、醤油、酢、福神漬といふしやれたものを澤山仕入れて、寺本氏は今日の正午、シカゴから歸つて來た。そこで、明日午後、ピクニックをやると決定。

六月二十日（水）

朝、聖書講演後、自分は「ヤーキース天文臺を通して見たる現代天文學の一斑」について課外講話をし、その後ピクニク實行委員會總會、場所は天文臺の芝生に隣るバレット教授の庭と決定。寺本氏は村で米十二ポンド、肉・野菜・玉子等を買ふ。

午後二時頃から、英子は中村、朝枝、矢部諸氏と共に、パンビー教授宅の臺所を拜借して御壽司を作る。五時、日本人全部、芝生の上に集り、二つの圓席を作つて、急造のかまどを圍み、肉のすき燒きと御すしとを會食す。パンビー教授の家族一同とリー氏夫妻とを招待。遂には歌ふやら踊るやら、全く日本氣分になつて興が盡きなかつた。

六月二十一日（木）

朝九時から、日本人學生部はヴンビー教授に請ふて戰時のベルギーの講演を聞いた。

午後二時から、夏期大會の學生一同、汽船三隻に分乘して、ゼネバ湖を一周する。自分等はハーバード號に乘り、レーキセネバ市に三十分間停泊した。湖上から天文臺の景色は實に壯觀であつた。

月末、自分等は當地を去る筈なので、今夕、フロスト臺長宅に招かれて、送別の晩餐を頂く。其の後、急の思ひつきで、フロスト夫

人等に連れられて、レーキゼネバ市の青年會館へ活動寫眞「ロビン・フッド」を見に行く。十時半ベーに歸り、それから更に又、自分は日本人學生諸氏に、天文臺の十二吋望遠鏡で月や二三の星を見せた

六月二十二日(金)

早朝、吉田源治郎氏は天幕村を去つて、オーバーンに歸られた。今日の聖書講演に、自分は米國人の心理と宗教に關する感想を述べた。

午後四時半から、日、支、朝鮮、比、印度等の「外國人」學生部主催で、米人指導者レセプションを開く。英子は日本服で接待。

夕食後、天文臺の芝生の上で、五六人の日本人集まり、朝鮮人の安氏を招いて、朝鮮問題に關する意見の交換をした。

今日、ウィルソン山天文臺の臺長アダムス氏から招待狀を貰つた

六月二十三日(土)

聖書講演には主の復活問題を述べた。

晝食に、自分等は、ヴンピー氏の食堂へ島津氏を招く。

午後はエトラ小遊星の位置計算。

今日の午後四時、英子はヴンピー氏夫妻につれられて、湖水へ游泳に行く。

六月二十四日(日)

午前九時より聖書講演、之れで終結。

夕方、湖岸の丘上に開かれた夕陽會に出席。之れで十日間の學生大會が全部終つた。その後、自分等は島津氏等のカテージを訪ひ、祈りを共にし、別れの挨拶をして歸宅す。

六月二十五日(月)

YMCA大會の學生たちは今朝皆それ〴〵歸鄕して行つた、自分等も、西部旅行の出發期が近づいたので、今日午前中から、荷作りなど、準備を始む。

午後四時から獨りレーキゼネバの齒醫者へ行く。

夜、大雷雨。カルヴアト、ジエンキンス兩家の庭の大木へ一回づつ落雷した。

六月二十六日(火)

午前中、研究室で「簡單法」により海豚座デ星の分光寫眞の測定と計算をする。

午後五時半から、ヴンピー夫妻の發意により、同家の芝生の上で自分等のための送別ピクニクが開かれ、大人小人合せて四十人ほど集まり、サンドウイチなどの輕便食事を食べながら、愉快に遊ぶ。日が暮れて、月が東から現はれる頃、ヴァジニア・リールを皆で踊つて、別れた。

六月二十七日(水)

いよ〳〵出發の日。朝から何くれと準備。九時頃、リー氏の車で停車場へ行き、夏期乘車券についてプルムガード氏と打ち合す。午後、荷物の中で、秋まで當所にあづけて置く方と、西部へ持ち行くものを處分す。

午後五時、フロスト臺長夫妻の自働車で見送られて出發。七時半シカゴ着。すぐ、青年會館に行つて見ると、そこでは恰もレーキゼネバ夏期學生大會の記念會が開かれて居たので、仲間入りす。

さて、夜十時、青年會及び島津家一同に別れを告げ、夜半十二時十五分、北西停車場出發のユニオン・パシフィク鐵道線コロラド急行に乘る。

六月二十八日(木)

終日、廣野を西へ〳〵走りつゞける。

午後三時、カウンシル・ブラフからミスリ河を渡つて、オマハに停車。一時間の餘裕を利用して市内を散歩す。四時發車して又西へ。

六月二十九日(金)

朝六時、コロラド州に入つて、右の車窓外にロッキー山を望む。ベーの八ケ月の生活に全く見なかつた山の景色を今見るのがなつかしい。七時過、デンヴー着。

朝食後、見物車に乘つて、市内の名所を一巡。十一時からコロラド大學を訪ひ、フロスト氏の紹介狀によつて、物理教室のナイスワ

ンダー教授に面會、同教授の案内で、大學のチエンバリン天文臺を見る。（臺長は不在であつた。）
午後三時、サンタ・フエ線に乘つてコロラド・スプリング市に行き、ジョイス・ホテルに入る。夕方、散歩してパイクス峯を見る。此の市は上品な消夏地である。

六月三十日（土）
朝食後、アントラー公園を散歩、仰いで西に一萬四千呎のパイクス峯を見、園内には亦此の山に縁あるパイク將軍の記念碑を見る。
七時半、サンタ・フエ停車場發車、十時デンヴアに着き、汽車待ちの間、市内を散歩。午後一時、ユニオンパシフイク線によつて、西行、オグデンに向ふ。初めてトウリスト車に乘つて見る。

七月一日（日）
朝七時、オグデン着、さきを急ぐため、豫定のソルトレーキ見物をよして、同じ列車を乘り繼ぎ西行す。車窓の景色は例により單調無趣味である。只、大鹽湖の長堤だけは見ものであつた。

七月二日（月）
いよ〳〵カリフォルニア州に入り、朝、床の中にぬるうちにサクラメント市を通過した。九時半、オークランドの濱で汽車をすて、渡船でサンフランシスコ着。直ちにカリフオルニア街の小川ホテルに入る。御書はさし味とみそ汁の御馳走!!
午後、市内を見ながら、上町の日人町に行き、サター街の青年會を訪問、島津氏の紹介狀により、富澤主事に面會。それから、案内されて、目下「世界教育大會」開會中のフェアモント・ホテルに至り全太平洋部の協議會に出席す。
午後六時一旦歸宿、それからステワート・ホテルに原田助氏を訪ひ、教育大會に關する打合せをした。
夜九時、フエアモント・ホテルに於ける大レセプションに臨席、十時半歸宿。

七月三日（火）
午前九時、フェアモント・ホテルに行つて、兩人共、世界教育大會の日本代表として登錄。それから國際協力部の協議會に出席す。
午後は市内散歩、日本人町のあたり、それから市廳舍のあたりをあるく。

七月四日（水）
今日は米國獨立祭で、教會大會も特別プログラム。
自分等は朝十時から、見物車に便乘して、市内の名所や大洋岸のクリフ館、金門公園、要塞地帶、陸軍營戍地などを見る。
午後一時から市の公會堂に開かる獨立祭祝典及び國際的パジエントを見る。夕方は、又、市廳前の前場で大きな仕掛花火。それが濟んで、九時からは公會堂内で大舞踏會――かうして、終日ヤンキー連の騒ぎぶりを見る。

七月五日（木）
朝十時半、渡船でオークランドにわたり、電車でバーケリーの加州大學に行き、天文臺を訪れた。臺長ロイシナー氏もクローフオド氏も不在であつたが、アイナーソン氏が親切に諸設備を案内せられた。御書には學内の食堂で同氏の御馳走になり、それから圖書館や戸外劇場や高塔を見せられ、終に大學本部に行つたが、近頃新任の總長カンベル氏は不在であつた。
午後二時、轉してオークランドに行き、一二度、途に迷つた末、漸く東方の山上にシヤボー天文臺を訪れた。ところが生憎、臺長バークハルター氏は病氣就床中とのことで面會不能、たゞ、新しい天文臺の建築の構へをカメラに收めて歸途についた。

七月六日（金）
今朝はサンフランシスコ灣内の見物のついでに、例の天文學界の名物男シー博士をメーア島の海軍天文臺に訪問したいつもりであつたが、朝れ坊をし過ぎて便船を失ひ、あきらめて、市内を買物などした。
午後八時から、サター街の青年會に招かれ、四五十の同胞青年に「恒星と遊星」の講演をした。